

先月号まで、少し大きな視点での話を続けてきましたので、今回は津山城の一部分にこだわった話をしてみたいと思います。

現在復元整備されている備中櫓を南から見たとき、備中櫓から接続するように左側に石垣が伸びています。この石垣は「五番門南石垣」といい、備中櫓を復元整備する前に積み直した石垣です。

今年度は、この石垣の上に土塀の復元を予定しています。今回は、この土塀の仕様について検討します。



▲備中櫓左側に土塀を復元予定。イルミネーションが設置されている奥の石垣は天守台

土塀の基本的な構造は、ほぼ一間（約1・8m）間隔で柱を建て、柱頂部は腕木や出桁で瓦屋根を支え、柱の間と柱の表面は塗籠、外面は漆喰で仕上げるといふものであり、このような土塀は各地の城郭で一般的に認められます。

そこで津山城の土塀についてですが、現在残されている各種史料からはどのようなことがわかるのでしょうか。

まず古写真からは、漆喰塗の土塀が存在したことが判明します。また、その土塀の軒の高さがお

## 津山城百聞録

### ～津山城の土塀の構造～

おむね七尺（約2・1m）程度であることがわかります。ただし、写真からは狭間と呼ばれる小窓の有無については判明しません。

次に絵図面を見ると、瓦葺、漆喰塗仕上げで、弓狭間・鉄砲狭間を備えた姿が描かれています。これらの史料から、津山城土塀の外観は軒の高さ七尺程度、瓦葺で漆喰塗の一般的な外観の土塀であったことがわかりました。

ところで、古文書には土塀の修理に関する記事が多数見られます。それらの記録の中で注目されるのは、『勘定奉行日記』の「下地一重之所も追々者元之如く二重に相戻し度」という記事です。ここに記された「二重（塀）」という語は、いわゆる「太鼓塀」を指すものと思われる。

太鼓塀とは、土塀の土壁を表側に裏側に別々に設けて内部を中空にした塀で、その構造が太鼓に似ていることから名づけられたものです。通常は、その中空部分に栗石（小石）などを詰め込みます。このような構造の例は金沢城に現存するのみで、江戸城にもかつて存在したと伝えられていますが、非常に特殊な構造の塀です。

以上の各種史料を総合すると、今回復元整備を行う「五番門南石垣土塀」の仕様は、外観は「軒の高さ七尺程度、瓦葺で漆喰塗」、その構造は「太鼓塀」という仕様で整備することとなります。

このように土塀1つを取り上げてみても各種史料の検討から数多くの情報が得られ、結果として全国的にも珍しい構造の土塀の復元が可能となりました。

ちなみにこの太鼓塀は、中の石が銃弾の貫通を防止する構造となっており、通常の土塀よりもはるかに重装備であったと思われる。

#### 4月中のひとの動き

人口	111,376人 (前月比+227)
男	53,155人 (同+134)
女	58,221人 (同+93)
世帯	42,726 世帯 (同+187)
転入	651人
転出	419人
出生	74人
死亡	79人
(5月1日現在)	

#### つぶやき

#### 編集室

梅雨の時期ですが、昨年の台風で山肌が崩れたりしているため、今年は大雨による地崩れなどの災害が心配です。危険なところがないか、避難場所はどこにあるか、家族やお隣同士でよく確認してください。(鉄)

津山はミュージシャン稲葉浩志さんが生まれ育った町。一度はその道へ野望を持った私も彼を尊敬する1人です。敬意を込め団体企画Bzコピーバンドコンテストに応募してみようかな。@賞金ねらいではありません。(X)

お城まつり前夜祭のキャンドルアートのはしらは夢のようでしたね。でもイベント終了後は真っ暗！1人で歩く裏門までの心細さといったら…。夢心地も一気に覚めて、わき目もふらずスタコラ走って帰りました。(e)



#### 編集・発行

津山市企画部行政広報室（市役所3階）  
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地  
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152  
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp  
☆広報つやまはホームページで閲覧できます  
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

発行日 毎月10日

印刷 株式会社 津山朝日新聞社印刷部



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください。